

血管の老化や動脈硬化の進行は、脳や下肢に栄養を与える動脈を狭窄（きょうさく：血液の流れる内腔が狭くなる）させたり、血管壁に付着している動脈硬化プラークが血栓となり、動脈を閉塞したり、血流低下や塞栓などを引き起こします。当院では、他の医療機関のご依頼を受け、下肢の血管検査を行っています。

下肢の場合には、狭窄及び閉塞箇所の有無、その周囲の血管壁や石灰化沈着の様子などを調べる事が、治療のために必要となります。当院で行われている下肢の血管検査について、いくつか紹介いたします。

下肢 CT 血管撮影法（CT アンギオグラフィ：CTA）

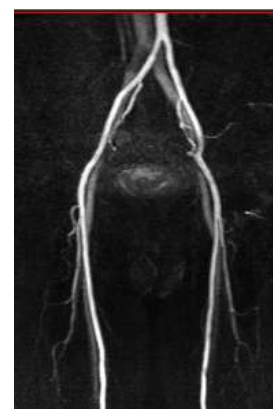
ヨード造影剤を静脈内に注射し、短時間に、薄い断面で広い範囲を撮影（大動脈から足先まで）が可能です。血流評価・血管の石灰化評価・狭窄評価など、多くの情報が得られます。石灰化の情報が分かりやすく得られるため、下肢の血管治療には役立つ検査方法です。造影剤を使用するため、以前に検査で副作用のあった方や、喘息の方は、事前に申し出てください。



【下肢 CTA 画像】

下肢 MR 血管撮像法（MR アンギオグラフィ：MRA）

ガドリニウム造影剤を使用せずに、非造影で下肢の血管評価が行えます。検査時間は約 30 分で下肢の全範囲を撮像できます。検査中は足を動かさないように固定します。少し長めの検査となりますが、下肢 CTA と違い、造影剤を使用せずに血管評価ができるため、造影剤副作用の心配や、針を刺すなどの医療行為をせずに検査できるのが特徴です。



【下肢 MRA 画像】

今回紹介した検査は、カテーテルを使用した血管造影検査（P16 に紹介）より、低侵襲的検査であり、安全で楽に検査ができます。検査に対しての不安や、分からないことがあれば、当院スタッフにご相談下さい。